



埋文だより

第42号

平成18年10月13日発行

センターで学ぶ

今年度も7月から8月にかけて、中高生や教員等を対象として多くの体験活動や研修が行われました。(内容の詳細は、3頁をご覧ください。)



パワーアップ研修



インターンシップ



フレッシュ研修・初級講座



職場体験学習

目次

- ・センターで学ぶ..... 1
- ・先史・古代の歴史を探访してみよう!!..... 2
- ・エントランスホールをリニューアル/センターで行われた各種研修..... 3
- ・クローズアップ発掘現場 向井原遺跡・荒木貝塚..... 4
- ・シリーズ埋文豆知識② 知っていますか?ツボとカメの違い?/企画展のご案内... 5
- ・この夏一番の思い出 考古学きりしまキッズ in サマー..... 6

当センターは、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで見学できます。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

なお、センターのホームページは、上野原縄文の森(<http://www.jomon-no-mori.jp>)からお入りください。

地域が育む

「かごしまの教育」県民週間

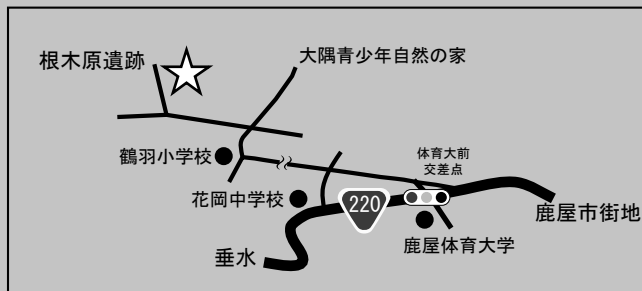
先史・古代の歴史を 探訪してみよう!!

当センターでは、地域が育む「かごしまの教育」県民週間（11月1日～11月7日）にあたって、今年も遺跡現地説明会などを企画しました。この機会に遺跡や地域の歴史を身近に感じてみませんか。

根木原遺跡(鹿屋市)



根木原遺跡は、一般国道220号古江バイパスの建設に伴い、平成9年度から調査が始まった遺跡です。これまでの調査で、旧石器時代と古墳時代の遺構、遺物が多く見つかります。説明会では、旧石器時代の人びとの調理場の跡と考えられる礫群などが見学できる予定です。

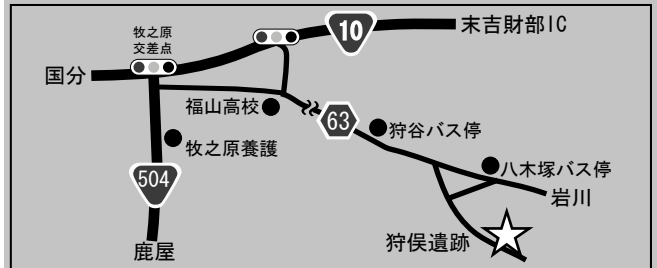


日時 平成18年10月28日（土）
1回目午前10時～、2回目午後2時～
連絡先 0994-46-5920（発掘調査事務所）

狩俣遺跡(曾於市)



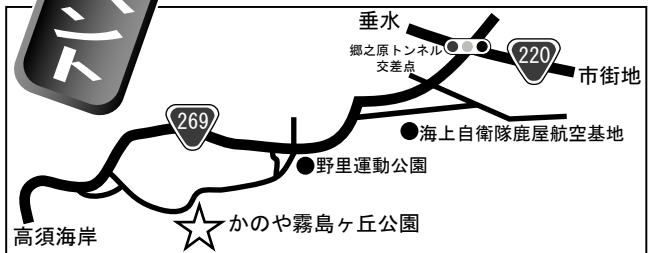
狩俣遺跡は、東九州自動車道の建設に伴い、調査を行っている遺跡です。これまでの調査で、桜島の火山活動（約230年前）で噴出した火山灰に覆われた畑跡や溝・道跡、また、縄文時代早期や晩期の土器や石器などが見つかっています。



日時 平成18年11月4日（土）
1回目午前10時～、2回目午後2時～
連絡先 080-6417-7193（発掘調査事務所）

土木フェスティバル(鹿屋市)

大隅河川国道事務所などで構成する実行委員会が主催するイベントに、当センターも出展します。当日は、発掘調査の成果をパネルで展示するほか、古代生活体験（火起こし・勾玉作り）コーナーもあります。お気軽にご来場ください。



日時 平成18年11月11日（土）
午前10時～午後3時
連絡先 0994-65-2573(国土交通省大隅河川国道事務所)

エントランスホールを リニューアル

エントランスホールの展示をリニューアルしました。また、2階図書室前でも発掘調査の最新情報や遺跡見学などの普及啓発活動の状況を写真で紹介しています。整理作業の様子と合わせてご覧ください。



2階図書室前



エントランスホール

センターで行われた各種研修

中学生職場体験学習

(国分南中・牧之原中 7月11～13日)

国分南中学校と牧之原中学校の2年生、それぞれ4名が職員の指導を受けながら土器洗いや土器の接合などをしました。この体験をとおして、働くことの楽しさや厳しさを学んだようです。



パワーアップ研修

(小学校 7月27,28日 中・高・養護学校等 8月11,12日)

教職経験10年の教員を対象とした研修で、28名が勾玉作りやアングイン編み、古代食の復元などにチャレンジしました。また、埋蔵文化財を活用した学習指導について活発な意見交換がなされました。



インターンシップ(8月2～4日)

県立鹿児島南高校の1年生が、古銭の保存処理や土器の実測などに取り組みました。また、考古学や将来の進路について職員と意見交換をしました。考古学とそれに携わる仕事について考えるよい機会となったようです。

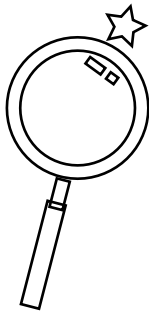


フレッシュ研修・初級講座(8月17,18日)

新任教員と文化財専門職以外の市町村職員8名が、土器の文様を写し取る拓本や勾玉作りなどの体験活動を行いました。研修をとおして、埋蔵文化財に対する関心が一層高まったようです。



クロ ーズ ア ッ プ



発掘

現場

今年度も県内各地で発掘調査が行われています。ここでは、調査中の向井原遺跡(さつま町)の状況と、調査が終了した荒木貝塚(喜界町)の調査成果を紹介します。

向井原遺跡は、さつま町の観音滝公園の近くにある遺跡で、古墳時代の竪穴住居跡などが発見されています。この住居は、一辺が約4mの四角形(方形)につくられており、中からは完全な形の埴形土器(小型丸底壺)など当時の生活用具が見つかっています。夏休みを利用して体験学習に訪れたさつま町の子供たちは、発掘体験や勾玉作りなどをおして古代の生活に触れていました。【調査期間：5月9日～12月27日】



さつま町

向井原遺跡

さつま町



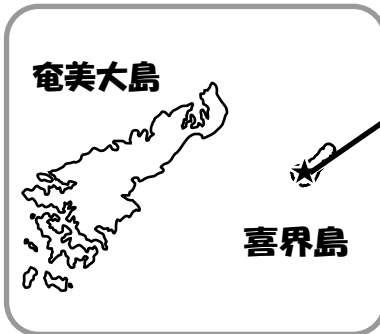
住居跡から出土した埴形土器



方形の竪穴住居跡



発見された集落跡



奄美大島

喜界島

荒木貝塚

喜界町

荒木貝塚は、海に面した荒木集落から一段高いサトウキビ畑の中にある遺跡で、15世紀頃の集落跡などがみつかっています。この集落跡では、建物の柱穴や土坑が合わせて300個以上確認されました。この柱穴や土坑からは、中国で焼かれた青磁と呼ばれる碗・皿の破片が出土しています。

遺構の数が多いことから、重要な遺跡であるとともに、荒木集落の歴史が約600年前までさかのぼることが明らかとなりました。



調査区内で見つかった青磁

【調査期間：8月15日～9月8日】

知っていますか？ツボとカメの違い？

～土器の形と用途～

発掘調査で出土した土器にはいろいろな形や大きさがあり、昔の人びとはそれを使い分けていたと考えられます。そこで、今回は、弥生時代の壺（ツボ）と甕（カメ）の「形」と「用途」の違いを紹介したいと思います。



壺

小さな口

球状の胴部

稲作の普及とともに多く作られた土器で、収穫した穀物や水などの貯蔵に使われていました。



大きな口

張り出した胴部
底へ近づくとすぼまる形

現在の鍋のように、主に煮炊き用に使われていました。



甕

土器は、縄文時代から用途にあわせて作られ、使用されてきました。これら土器などの出土品は、過去の人びとの生活を知る手がかりとなり、大切な文化財として保護の対象となっています。

熊毛の考古学，南の島の最古の土器
新種子島空港開港 1 周年記念展

企画展



上野原縄文の森
第17回企画展のご案内

上野原縄文の森展示館では、11月18日（土）から第17回企画展「新種子島空港開港 1 周年記念展」の開催を予定しています。空港建設に伴う発掘調査で発見された縄文時代草創期の住居跡や隆帯文土器などを実物や写真で紹介いたします。ぜひ、ご来館ください。

この夏一番の思い出

考古学きりしまキッズ in サマー

7月25日、8月1・8日の3日間



作品を手に記念撮影

霧島市主催の「考古学きりしまキッズ in サマー」が、当センターと連携して行われました。この活動は、身近な埋蔵文化財を活用し、文化財への興味・関心を高め、ふるさとを大切に思う心を育てることを目的としています。参加者は市内の小学校3～6年生26名で、夏休み期間中に3回開かれました。

1回目は、縄文時代の本物の遺物に触れる

体験と縄文土器の接合・復元、2回目は、縄文土器の文様を拓本で取り、それで「しおり」や「壁飾り」を作る活動を行いました。3回目は、曾於市にある建山遺跡の縄文時代の層（約9000年前）で発掘を体験しました。

参加した子どもたちにとって、埋蔵文化財と触れ合い、縄文時代の生活や文化を感じる貴重な経験となったようです。



遺跡での発掘体験



霧島市国分公民館での活動と展示物

参加者の感想から

- ・本物の土器にさわったのは、初めてでした。
- ・土器復元は難しかったけど、がんばりました。
- ・見ただけではわからない文様が、拓本で浮かび上がってきたので、すごいと思いました。
- ・9000年前の土の上に立ったことがうれしかった。

埋文だより 第42号

発行日 平成18年10月13日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820

E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp